

下田地域の小学校統合における 小中一貫教育の校舎形態について

1 小中一貫教育の校舎形態

(1) 小中一貫教育の考え方

● 改めて「小中一貫教育」とは…

小学校と中学校の9年間を通し、

- 関わり合いの中で、子どもたちの社会性や生きる力を育む
- 子どもの発達や成長の段階に合わせた系統的な教育を展開する
- 小学校から中学校へのスムーズな接続を促し、「中1ギャップ」の緩和を図る


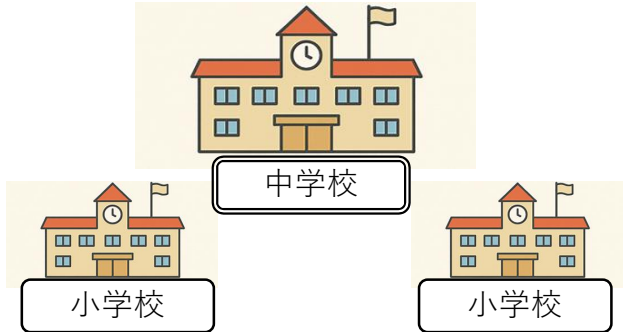

● 小中一貫教育は3つの「連携」が命

子どもたちの9年間の学びと生活を円滑につなぎ、教育の質を高めていくため、「情報連携」「行動連携」「カリキュラム連携」という3つの視点が重要

- 「情報連携」：児童・生徒一人一人の学習状況、生活状況、発達・支援ニーズなどを教職員間や学校間で適切に共有・活用
 - ・学習のつまずきや不登校傾向の早期発見のためのデータの共有
 - ・育ちの過程や指導履歴を次年度・次段階の担任へ引き継ぐ仕組み などこれにより、児童生徒の見取り・受け止めやそこから派生する行き違いを防ぎ、必要に応じたきめ細かな指導や家庭との協働支援を可能とする。
- 「行動連携」：教職員や児童・生徒が実際の教育活動や学校生活活動を共に行う中で意図的に関わり合う場を創出し、子どもたちの社会性を高める。
 - ・学園単位での小中学校間の児童生徒の合同行事や体験学習への参加
 - ・学園内小中教員の相互参観や授業研究会の共催
 - ・地域行事などでの一緒に活動を通じたふれあい（コミュニケーション）
 - ・乗り入れ授業や教材・ICT機器の共同開発・共用。また、課題解決学習を小中学校間でデザインし実施 などこうした共同活動の実践を重ねることで、低学年から高学年への移行ストレス（いわゆる「中1ギャップ」）を緩和し、子ども同士・教職員同士の信頼関係を構築する。
- 「カリキュラム連携」：小学校6年間と中学校3年間を通じた教育課程（カリキュラム）を一体的に編成・運用し、学習項目や指導法、評価基準のつながりと体系性の質をより向上させる。
 - ・9年間を「4・3・2」等に区分し、学習内容・指導要領を通貫的に再配置
 - ・学園内小中教員によるカリキュラムの共同開発。達成目標などを相互に確認し共有 などこれにより、前段階の学びを次段階に確実につなぎ、学力の底上げと多様な資質能力の育成を統合的に推進する。

1 小中一貫教育の校舎形態

(2) 小中一貫教育の校舎の形態

小中一貫教育校		義務教育学校 (施設一体型)
施設一体型	施設分離型	
 <p>○「校長」は、小学校1人、中学校1人 ○学年：小学校1年生～6年生、中学校1年生～3年生</p>	 <p>○「校長」は、学校ごとに1人ずつ ○学年：小学校1年生～6年生、中学校1年生～3年生</p>	 <p>○「校長」は1人、その他副校長1人 ○その他、前期・後期を分離させ、「施設分離型」の形態も可能 ○学年：1年生～9年生</p>

〈参考：三条市小中一貫教育の校舎形態の現状〉

学園名	中学校	小学校	校舎の形態
三条嵐南学園	第一中学校	嵐南小学校	小中一貫教育校 施設一体型
一ノ木戸ポプラ学園	第二中学校	一ノ木戸小学校	
三条学園	第三中学校	裏館小学校、上林小学校	
四つ葉学園	第四中学校	井栗小学校、旭小学校、保内小学校	
瑞穂学園	本成寺中学校	西鱈田小学校、月岡小学校	小中一貫教育校 施設分離型
三条おおじま学園	大島中学校	大島小学校、須頃小学校	
さかえ学園	栄中学校	栄中央小学校、栄北小学校、大面小学校	
ただの郷学園	下田中学校	長沢小学校、笹岡小学校、大浦小学校、森町小学校、飯田小学校	
大崎学園			義務教育学校

2 校舎の形態に応じた小中一貫教育の想定

小中一貫教育の形態の主な想定事項			(備考)
【現状】	【令和10年4月時点】	【令和15年以降の時点】	小学校(及び中学校)の校歌、校章、行事など、学校の基本的事項
	地域の少子化への対応のため、小学校統合準備が最速で可能と見込む時期	小学校児童数総数を含め中学校校舎での受け入れが可能になると見込まれる時期	R10の統合に当たって小学校のみ策定
<p>小中一貫教育校 施設分離型</p> <p>※ 小学校5校舎、中学校1校舎を活用</p> <p>【情報連携】</p> <p>児童の学習状況や指導状況の情報について、1中学校が5小学校から共有を受けるため、児童理解、調整に一定の注意が必要</p> <p>修学旅行や自然体験教室等について、小学校間の打合せ・調整が必要</p> <p>【行動連携】</p> <p>活動の適正規模化のため「ペア校」「トリオ校」の交流活動を実施</p> <p>中学校進学に伴う他校児童との関係づくりのため、5小学校合同により自然体験教室及び修学旅行を合同実施</p> <p>小中合同教職員の研修や授業参観による研修等で参加調整が必要</p> <p>【カリキュラム連携】</p> <p>学園ランドデザインに基づき5小学校それぞれでランドデザインを作成。教科等カリキュラムにおいては、地域性を反映させやすい。</p> <p>2学年を2年で履修する複式学級の場合、中学校とのカリキュラム連携を検討しづらい。</p>	<p>小中一貫教育校 施設分離型</p> <p>※ 小学校1校舎、中学校1校舎を活用</p> <p>【情報連携】</p> <p>児童の学習状況や指導状況の情報について、1中学校が1小学校から共有を受ければよいため、児童理解、調整の負担が軽減</p> <p>修学旅行や自然体験活動等について、調整不要</p> <p>【行動連携】</p> <p>(「ペア校」「トリオ校」不要) 小学校1校のため、児童交流の調整不要</p> <p>(5校統合) 小学校1校のため調整不要</p> <p>小中合同教職員の研修や授業参観による研修等で参加調整が必要(5校調整に比べ容易)</p> <p>【カリキュラム連携】</p> <p>学園ランドデザインに基づき小学校でランドデザインを作成。教科等カリキュラムにおいては、地域性のバランスを考慮しつつ反映</p> <p>複式学級を解消することで、小学校・中学校間のカリキュラム連携がより効果的に構築可能となる。</p>	<p>(小中一貫教育校 施設分離型を継続)</p> <p>小中一貫教育校 施設一体型</p> <p>※ 中学校校舎を活用</p> <p>【情報連携】</p> <p>小学校・中学校間の必要な情報を日常において随時で確認可能。また、小学6年から中学1年への進学時も学習状況や指導状況の情報の引継ぎがスムーズ</p> <p>【行動連携】</p> <p>小学校・中学校合同の児童生徒の交流活動を行う際に、校内であれば大きな移動が不要など、小学校・中学校間の児童生徒の交流活動が実施しやすい。</p> <p>教職員研修や授業参観、乗り入れ授業等において小学校・中学校の調整が必要であるが、同じ建物内であるため、移動等の支障なく実施可能</p> <p>【カリキュラム連携】</p> <p>学園ランドデザインに基づき小学校でランドデザインを作成。教科等カリキュラムにおいては、地域性のバランスを考慮しつつ反映</p>	R10時点では統合する小学校のみ策定。その後R15頃時点で、新たに義務教育学校のものとして策定
	義務教育学校 (施設分離型)	義務教育学校 (施設一体型)	R10時点で新たな義務教育学校のものとして策定
	<p>※ 前期課程(小学校)1校舎、後期課程(中学校)1校舎を活用</p> <p>【情報連携】</p> <p>一人の校長による情報管理権限の下、情報の共有が日常的にも計画的にも実施可能。また、前期課程(小学校課程)から後期課程(中学校課程)への進級の引継ぎがスムーズ。ただし、両校が別施設のため、情報共有の方法(場、時間など)の調整が必要</p> <p>【行動連携】</p> <p>同一の教育方針の下、活動を実施可能</p> <p>同一校による教職員の一体感の下、前期・後期合同の教職員研修や授業参観等はもちろん、日常の中で前期・後期の交流が生まれる。ただし、校舎が分離しているため、校長、副校長を分けて配置する必要がある。</p> <p>小中一貫教育における基礎充実期(1～4年)、活用期(5～7年)、伸長期(8～9年)ごとの活動が行いやすい。</p> <p>前期・後期の間の乗り入れ授業、教科担任制を計画的に実施できる。</p> <p>【カリキュラム連携】</p> <p>学園のランドデザインがそのまま学校のランドデザインとなる。</p> <p>小中一貫教育における基礎充実期(1～4年)、活用期(5～7年)、伸長期(8～9年)に応じた教科のカリキュラムで組替えなどが容易</p> <p>複式学級を解消することで、小学校・中学校間のカリキュラム連携がより効果的に構築可能となる。</p>	<p>※ 中学校校舎を活用</p> <p>【情報連携】</p> <p>一人の校長による情報管理権限の下、情報の共有が日常的にも計画的にも実施可能。また、前期課程(小学校課程)から後期課程(中学校課程)への進級の引継ぎがスムーズ</p> <p>【行動連携】</p> <p>同一の教育方針の下、活動を実施可能</p> <p>同一校による教職員の一体感の下、前期・後期合同の教職員研修や授業参観等はもちろん、日常の中で前期・後期の交流が生まれる。</p> <p>小中一貫教育における基礎充実期(1～4年)、活用期(5～7年)、伸長期(8～9年)ごとの活動が行いやすい。</p> <p>前期・後期の間の乗り入れ授業、教科担任制を計画的に実施できる。</p> <p>【カリキュラム連携】</p> <p>学園のランドデザインがそのまま学校のランドデザインとなる。</p> <p>小中一貫教育における基礎充実期(1～4年)、活用期(5～7年)、伸長期(8～9年)に応じた教科のカリキュラムで組替えなどが容易</p>	